



原小だより

～つよく 正しく 朗らかに～

7月号
令和6年(2024年)
6月25日
宇部市立原小学校



みんなで見守る原っ子の「自立・自律・おもしろい」

早いもので1学期も残すところ20日をきりました。児童は6月も授業はもちろん、総合的な学習や社会見学、プール学習など、様々な学習で力をつけています。その姿を見ながら、ふと思い出した言葉があります。「子育て4訓」という言葉で、ネイティブアメリカンの教えとする説や、山口県出身の緒方甫さん提唱したなど諸説ありますが、皆さんはご存じでしょうか。

子育て四訓

- | | | |
|---------|-------|-------|
| 1 乳児の時は | しっかりと | 肌を離さず |
| 2 幼児の時は | 肌を離して | 手を離さず |
| 3 少年の時は | 手を離して | 目を離さず |
| 4 青年の時は | 目を離して | 心を離さず |



小学生は1年生から6年生までと発達段階に幅がありますが、少年の時にあたる時期が多いでしょうか。入学した1年生も行動範囲が広がり、たくさん子どもたちと関わる時間が増えてきたと思います。この関わりの中で、トラブルになることもあります。学年が上がるにつれ、自分たちで解決する力が必要で、大人は手を離していくことが必要になってきます。

私たち大人は、子どもを思うあまりに子どもが自ら解決しなければならない問題に手や口を出してしまうことがあります。しかし、手をずっと離さずにいると、子どもたちは大人が解決してくれると考えるようになります。上の写真は6年生の調理実習です。包丁を使って野菜を切るのは危なげで指まで切ってしまいそうで、思わず手伝いたくなります。実際に、けがをしてしまうこともあります。子どもたちはだんだんと要領を得てできるようになっていきます。やはり、失敗も含めて、自分で経験をすることが大切です。原小が目標とする「自立」「自律」の力をつけるためには、目を離さず（見守って）言葉をかけることが必要です。もちろん、うまくいかなかったことや愚痴を安心して話せるようにしてあげる、聴いてあげることが、目を離さないことにもつながります。原小学校では、コミュニティスクールとして保護者の皆様だけでなく、地域の皆様や教職員等多くの大人たちが子どもたちの成長を見守りながら、コミュニケーションをとっていることが強みです。引き続き、目を離さず、心を離さず、ともに原っ子の成長を支えていけるようご支援よろしくお願い致します。



野菜名人の皆さんも苗植えの方法を
教えて、その後は見守ってくださいます



ウォーターアートパフォーマーの堀川玄太さん
ADHDである自分の特徴を友だちや地域の
方に知ってもらっていたそうです



6年生「模擬選挙」すべて本物を使って
演説を聴き自分の考えで選が経験を
します